

第87回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日時	令和3年8月17日（火）14時00分～16時00分
開催場所	市庁舎18階 みなと1・2・3会議室
出席委員	工藤委員長、有賀委員、今市委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法人	相原事務局長、上野副局長、高橋企画財務課長ほか
事務局	関森大学担当理事、大塚大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 なし）
議題	1 第86回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について 2 令和2年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果（原案）について 3 公立大学法人横浜市立大学の第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果（原案）について 4 次期中期目標の策定について 5 その他
決定事項	

議 事	<p><u>主要な発言は、以下のとおり。</u> （○：委員発言、△：法人・事務局発言）</p> <p>※議題1について<資料1> 特に意見なし</p> <p>※議題2について<資料2><資料3></p> <p>○5人全員同じところはこれで確定することとし、違っている部分について審議したい。 まず1-1教育に関する取組について、Aの方が多く、事務局案はAとしているが、これはAではなくSでいいのではないか。Sにしようという方はいるか。</p> <p>○Aを付けたが、上げてもいい。教育と研究を合わせればSでも良いという気がする。 法人がどういう根拠でAと自己評価したのかわかるか。</p> <p>△法人の自己評価の考え方は、指標のみにとられることなく、各計画全体における達成度合いを総合的に評価することとしており、指標が大きく上回っている計画もあるが、全体を捉えてA評価とした。</p> <p>○目標に対して、よくやっているのがA。目標を大きく超えてよくやっているのがS。今の話だと、数値面だけではなく質的な面でいくらか自制してAにしてあるという理解か。</p> <p>○私はSにしたが、法人側が言う通り、そのまま評価すると総合評価はAでもよいと思ったが、コロナで逆境の中これだけやられたことも背景にありSでよいと思った。</p> <p>○私は教育の現場におり、本当に大変だったと思う。後からコロナ関係の資料も受領した。非常によくやっていて、頭が下がる思いもあったのでSにした。</p> <p>○ここの1-1は、平均して結論はSということにする。 次の1-2は、多数でSという原案でよいか。 そうすると、教育と研究二つ合わせて大きなIになるが、小見出しの教育と研究がそれぞれSになったので、Sに引き上げることでよいか。 次のIIは皆さんがAなのでこのままでよいか。 IIIの国際化はSが1人で後の4人はAだが、Sの方はAという評価でよいか。</p>
-----	---

○Sをつけた。世界中こういう状況で留学生が来るのも行くのも難しい状況で、できるだけ精一杯やってそれなりの成果を出している。平時と違って有事の評価というのはむしろ平時より、相対的な評価の中で高くなるのではないかと思う。世界中がコロナ禍でできることを一生懸命やり、代替措置を講じ、逆に言えばグローバルなブランディングは高まったのではないかと思いSにした。

○今の補足説明を含めて、Aの方でSにしようかという方はいるか。なければ多数でAということではいいか。

○今委員が言われたことは、定性的には全くその通りだが、そもそも評価の基準に有事を想定していない。Aにならざるを得ない。この方法論を根本的な部分に触れながら議論しているので、これは仕方がない。

○それではここはAにする。

次のIVの2病院の中で、小見出しのIV-1は多数決でSということではいいか。IV-2、IV-3及びIV-4は皆さんAなのでAでFIXしたい。IV-5は、多数によりAということでは了承いただきたい。2病院の全体は、IVの評価も多数によりAということでは決めたい。

次はVの法人の経営について、V-1は皆さんAなのでAでいいか。

V-2の財務内容の改善は、Sが2人、Aが3人だが、A評価の方でSにしてもよいという方はいるか。

○Sにしてもよい。

○そうすると、Sが3人になるので、Sということではいいか。補助金があった等により黒字だったという面もあるが、法人も努力していたので。

最後のVIは皆さんAなのでAということではいいか。

そうすると、全体がFIXしたので評価の指標についてはこれで終わり、後は中身について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より業務実績項目別評価_I大学の教育研究の説明)

○ここまでで何か意見はあるか。委員のコメントも加味しながら整理してもらっているが、上の評価点は後で修正をお願いします。

(事務局より業務実績項目別評価_II地域貢献の説明)

特に意見なし

(事務局より業務実績項目別評価_III国際化の説明)

○P6からの評価Aの順調に達成したと認められるというのが共通で項目ごとのトップに書いてあるが、S評価に変更したところは表現が違ってくる。

△Sは上回って達成している、難易度が高いというような表現である。それを加える形になる。

(事務局より業務実績項目別評価_IV附属2病院の説明)

特に意見なし

(事務局より業務実績項目別評価_V法人の経営に関する目標の説明)

特に意見なし

(事務局より業務実績項目別評価_VI自己点検の説明)

特に意見なし

(事務局より業務実績項目別評価_の説明)

△事務局から1点修正がある。地域貢献の所の文章になるが、コーディネーター1名を配置し、教員紹介冊子を作成し市の各区局へ周知した結果とあって、その後の虐待を受けた児童の生体鑑定への取組とあるが、これはコーディネーターの配置とは直接関係無い内容で、誤って入ってしまっていると思われる。A評価ということもあり、一項目となると、生体鑑定の話は敢えてここに書かずに、政策課題アドバイザー型の教員地域貢献活動支援など積極的な取組は評価できるとするのがふさわしいと考えるが、そのように修正という形で提案する。

○原案は、コーディネーター1名を配置し、教員紹介冊子を作成し市の各区局へ周知した結果の次が、政策課題アドバイザー型の活動支援だった。前の会で言ったが、そのような原案だと、大学が市の下請けのようになって、大学としての自主性が無いということにならないか、地域貢献というと、公開講座をやるとか、横浜市の地域の方のためにやっているという本筋があって、プラスしてこういうこともやっているというのが総体としての地域貢献の表現であるべきだと思う。

原案が示されたときに言ったのは、コーディネーターを1名配置するのが立派だったという偏った表現になるので、むしろ新たにコーディネーターを1名配置し、各区局に周知した結果というのを削って、生体鑑定の取組を加えながらコーディネーターがらみのアドバイザー型活動支援だけを特記するのではないような記載の仕方もあるのではないかという意見を言ったが、前段の方が残ってしまったので、読み方によってはコーディネーター1名が生体鑑定にも関係しているかようになってしまった。

これはよくないので、事務局が言ったように、原案のような書き方にするのか、生体鑑定も入れて地域貢献だけでない支援活動だけではないとするのか。私の修正案は、「地域貢献では、「新たに～2行目の周知した結果、」までを削るという案だが、事務局の案は、そうではなくて、2行目の「横浜市と連携して～生体鑑定への取組」までを削るという修正案となる。

△委員長の前回の議論の話を踏まえると、大学としては世に広く貢献していることも一つあり、一方横浜市との連携も一つありという、どちらも横浜市と組んではいるが、大きい社会貢献のようなものと、市役所への貢献のようなものが、前回の議論に合っている内容かと思うので、委員長の案で事務局としては特に問題ない。

○一つ一つの書いている内容は事実。例えば「地域貢献面では、～1名を配置し、～各区局へ周知した。」また、「横浜市と連携して～評価できる。」と書いておけば、別に嘘を書いていない。何でも多く書けば良いというものではない。

○P7のⅡ地域貢献の我々のコメントで、「○」が2つあって、個別にはこういうことだと言いながら、総括評価だから、繰り返すよりはこれを縮めた形が良いと思うが、違う事柄を2つに縮めるので、飾り言葉を省いても良い。

そうすると、P4の「地域貢献面では、」の後の「新たに～各区局へ周知した結果、」までの一行余りを削る。結果、行数は2行位になるが、本当は本筋の公開講座とか一般のことを言いたいんだけど、そこは書かずにコロナで。そのような修正で了承いただけるか。

○今の意見に賛成。気になるのは、コロナ収束後というのは、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの収束後のこと。書き言葉としゃべり言葉が多く入り込んでいる

○そこは全体を通して、コロナ収束後というのは話し言葉なので修正するようにお願いします。本件については、修正等も加えながらこれでF I Xしたい。

※議題3について<資料4><資料5>

(事務局より資料4第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する各委員評価一覧の説明)

○先ほどと同じような順番で行きたいが、まず I については、皆さん A なので A ということでよろしいか。

次に I-2 研究の推進だが、S が 2 人、A が 3 人。A の方で S でも良いという方はいるか。

○S にしても良い。

○では、多数決で I-2 は S ということにする。I-1 と I-2 を合わせた一番上の I はあと 2 年見ながら評価の機会もあるので敢えて S とするまでもなく A でよいか。

次の II 地域貢献は、多数決で A で了承いただきたい。

III は皆さん揃って A なので A でよいか。

IV の小見出しの IV-1 は、多数決で A でよいか。IV-2、IV-3、IV-4 及び IV-5 は皆さん同じ A なので、IV 本体も A ということでよいか。

V だが、V-1 は、個人情報の扱いなどで B をつけた方が 1 人と、A が 3 人だが。

○A にさせてもらってよいか。

○確かに注意喚起は常にしなければいけないがトータルで A ということでよいか。

V-2 財務関係は皆さん A でよいか。では V 全体も A とする。

最後の自己点検も皆さん A で。これで F I X させてもらいたい。

(事務局より中間評価の各論_ (1) 教育と研究の説明)

特に意見なし

(事務局より中間評価の各論_ (2) 地域貢献の説明)

○P 3 の下から 4 行目の所に、教員地域貢献支援事業の拡充や地域コーディネーターを配置とあるが、先ほどの 2 年度の評価結果、それについての大学側の説明と我々の評価を踏まえ、正しいのか。

△教員地域貢献活動支援事業は元々ある。地域貢献コーディネーターを配置したことで確かにその事業の幅が広がった。つまり地域貢献コーディネーターを配置することで教員地域貢献活動支援事業がさらに拡充したということであるため、この 2 つの項目を並列に記載すると意味が少々おかしくなってしまう。

○先ほどの 2 年度評価の表現と平仄が取れるように修正してほしい。

○今指摘した P 3 下から 4 行は、2 つの事柄を並列で書いてあるから、先ほどと平仄が合わなくなるので、気を付けながら微修正したらよいか。

(事務局より中間評価の各論_ (3) 国際化の説明)

○イの「・」の 3 個目の下から 3 行目の「(以下、コロナ禍という)」とある。良く読むともっと前にもコロナ禍と出てくるので、修正をお願いする。

○この最後の三つめの「・」のところの改行がおかしくなっている。

(事務局より中間評価の各論_ (4) 附属 2 病院の説明)

○P 5 の地域医療の一番目の「・」最後の語尾は句読点「。」である。

○P 6 の医療安全の「・」3 個目のセンター病院において、特定機能病院以外の病院として機能種別「一般病院 3」に認定され、とある。一般病院 3 という道具立てを使って、特定機能病院ではない病院が日本医療評価機構の認定を受けた。これだけを見ると特定機能病

院ではない病院が特定機能病院に認定されたように読まれかねないのではないか。機能種別一般病院3という方法論で、特定機能病院ではない病院が、特定機能病院と同じように認定をされたもの。

○ぜひ正確に、わかりやすいように。

(事務局より中間評価の各論_(5)法人の評価の説明)

○何か気づいた点はあるか。このP7下から二つ目の「・」だが、他の所はみな、ですます調になっているが、2番目の「・」だけが「対応すること。」と体言止めになっている。「両立に向け適切な対応をされたい」だけだと、今まで適切に対応していないようになってしまうので、「適切」以下のところを「より一層適切に対応されたい」としてはどうか。

○P7のイの2番目の「・」でダイバーシティという言葉が使われていて、障害のある方を採るとか、働きやすい職場の実現に向けた取組は、ダイバーシティを推進したことになるのか。違和感がある。

△委員の言う通り、実績の所は別々の項目で書かれていたのをつなげたので、ここを一文にするのは無理があるのかと思う。

○ダイバーシティは難しい言葉だから、あまり不用意に使わない方が良い。確かに説明の所にダイバーシティと書かれているが、一文にしてしまうと、これではダイバーシティという指針にはならない。書き方を変えた方が良い。ダイバーシティと書かなくてもいいかもしれない。

○P8「・」の一番最後のところ、「法人全体での活用・普及に取り組んでいるが、その影響に関わらず」というのは必要か。「今後働き方改革を進める上で」とつなげてしまった方が良いと思う。何の影響なのかよくわからないので。

○無い方がすっきりする。

○先ほどのダイバーシティのところは、縮めるよりは誤解を招かないように前後をつなげて、男女間とか障害者、健常者だけでなくもっと広いダイバーシティとか、その辺が読み取れるようにした方が良いかもしれない。

(事務局より中間評価の総論の説明)

○P2の上から3, 4行目のあたりの、大学入学者選抜改革など、市大を取り巻く環境は大きく変化しているというところまではわかるが、感染症の拡大等により、改めて大学の存在意義が問われているという表現があるが、感染症の拡大で存在意義が変わってしまうということは無いのではないかと思う。あとの文脈につなげるとすれば、大学が取り組む課題が増えているとか、転換期に来ているとか、そういう表現の方がつながりやすいのかと思う。

○いろいろな影響を受けているけども・・・。

○大学の存在意義が変わってしまうということはないと思った。おそらく医療分野等で違った存在意義が出ていることも含まれているのかと思った。これだと存在意義が減っているような印象を受けた。

○合わなければ省いても良いかもしれない。

○課題がたくさん出てきて、大学の役割が変化している。あとに書いてある時代の変化を捉えてということだろう。そこにつながる表現で良い。

- 中期目標の中の前文の下から4行に市大の存在意義が出てくる。市大が、時代の要請に応え、存在意義を発揮し続ける。だから問われるというのではなく、改めて大学の存在意義をより一層発揮するためとか、そういう側からでもいい。
- 「大きく変化している。」にして、その後を取って、「法人が市や県域にとどまらず広く～」とすればつながるのではないか。
- そうしよう。3行目の、大学入学者選抜を削って、「市大を取り巻く環境は、大きく変化している。」次の一文の主語が法人になっているが、市大にしなくては。
- 1行目の所で、「公立大学法人横浜市立大学（以下、法人という）」と書いてあるが、（以下、大学という）の方が本当は良い。
- 以下の所、「以下「市大」という」がよい。P2の5行目の所も法人がというのを市大にするということによいか。
P1の下から3行目の所で、教員の働き方改革とあるが、ここは敢えて働き方改革を教員だけに限定するのは変なので、教員以外の医療従事者や事務職員も入るような表現にした方がよいのではないか。働き方改革はみんなのこと。
- P1の下から4行目の法人の経営に関して、「理事長と学長」とあり、多く出てくる。P7のイの「・」3つ目の理事長・学長のリーダーシップのもと、とついでいけば違和感がない。総括の所で、理事長と学長の緊密な連携という、あまり緊密な連携ができていないようにとられる。ガバナンスというのはあくまで理事長のことで、教育現場のトップとしては学長、ということがある中で、敢えてこういう表現をするのはどうか。
- 理事長は、横浜市の場合は市長が任命する。学長は学内の選挙か。
△選考会議で推薦して理事長が任命する。
- 法人側と大学のガバナンスがあると思う。往々にして法人側と大学側の意見が合わないことがある。理事長と学長が一緒の所もあるし、今回ホームページで調べたら、副理事長が学長である。なかなか理事長と学長というのが、お金の事などでうまくいかないことも多いと聞き、一緒にするところもあるし、別々の方が健全だということもある。当然ながら緊密に連携しなければいけないが、協調している。ガバナンス全体の強化をしなければいけない時に、両者がともに協力し合って、今はできていないかという問題より、こうすべきであるということを取って言うということなのだとは私は理解している。実際には、それほどうまくいっているところばかりではないかもしれない。
- 設置形態で違うが、私立の場合は、法令上は理事長がいて学長が別にいる。古い大学の場合は、理事長イコール学長で一体的にやっている大学が多い。国立大学を法人化するときに、議論して、要らぬトラブルを招かないようにしようというので、理事長イコール学長にした。ところが公立大学の場合は、総務省の地方独立行政法人法のもとで作られたので、大学だけでなく、地方自治体の機関を独法化するときに議論をして、別々になっている。首長が一応オーナーだから私学のような理事長の強さがないように思う。
- 私学も今はオーナー大学でやっているところはそんなに多くはないかもしれない。
- 協会（私立大学協会）系にオーナー大学が多い。
- 皆さんそれぞれうまくやっている。
- 別々だから悪いわけではない。うまく連携が取れているというのは出しても悪くないかもしれない。

○敢えて独法化してこのような建付けでやっているのです、それは仕組みとして普通なので、あまり分離と書くのもどうか。これは評価をする時に敢えてこの表現を使うのか。

○市大の場合は別々にしようと言ったのか。

○地方独立行政法人法で、それぞれの自治体の判断で一緒にすることもできるし、別々にすることもできる。

○横浜市が別々にしようとした考えは何か。

△当初の資料を見ると、いわゆる経営者である理事長と、教育のトップである学長は、それぞれ求められる資質が違う部分があるので、それぞれ専門性を発揮して両輪でやっていただこうという趣旨だった。

一番のポイントは、600～700床規模の病院が2つあって、それを学長一人ですべてを賄うというのはかなりの労力があるだろうという意味で、経営面のプロが1名、教学のプロが1名という体制がどうしても必要だという判断を当時の横浜市がしたということだ。

○病院系と横浜市の様々な施策を、市大もできることならやってもらおうということで、COとCEOの関係のように当時受け取っていた。敢えて書かなくても、この表現はこれまでも良く出てくる。

○違和感はない。

※議題4について<資料6>

(事務局より資料6第4期中期目標策定に向けての説明)

○これは、市としてこういう方向で検討していくという、粗々の案という理解でよいか。

△こういった考え方で、法人と議論して進めていきたいと思っていることを本日説明し、こういった視点もあった方が良くとか意見ももらえれば、それも踏まえてやっていきたい。2番で示したスケジュール通りで今後進めていきたいと思うので、委員にはその都度意見をもらいたいというような趣旨。

○これは市側がこれを踏まえて学校側とやるのか。

△そうである。

○今日の段階では細かいことは別として、例えば100周年に対して、法人が何か地元あるいは市民、地域に対して、何か施策とか戦略とかは織り込まれてくるということか。これは中期目標策定とは別の話か。

△大学創立100周年記念事業については、法人として取組を進めており、次期中期計画の最終年度となる2028年が創立100周年に当たる。大学は、学生生活・環境改善、新たな研究創生、ビジネス人材育成・留学支援の計3つのプロジェクトを走らせている。その中に病院・医学部等再整備も含めて、今期中に新たなプロジェクト設置も検討をしているところである。

○法人がそうであれば、市側も了解となれば、そういったこともこの中に織り込まれてくるという理解か。

△プロジェクトを個別には書くことはないと思うが、100周年を見据えた対応を織り込むことになると思う。

- P2の「○」の3番目は、2病院の再整備について構想の実現に向けた目標を検討するとあるが、何を検討するのか。これはまだ決まっていないのか。
- △米軍に接収された土地が移転候補地ということもあって、返還が明確になっていない状況で、このタイミングで基本計画を進めるとはっきり書きづらいというのが現状。一方で構想としては、老朽化、狭隘化、機能をさらに強化すべきといった課題は明確になっているので、これらを具体化させていこうというイメージをしている。
- 実際に今の骨子案は、今年度中。こういうことは織り込まれるのか。次期中期計画の中間時点ぐらいになってくる。
- △現時点で再整備構想自体は発表しているし、スケジュール感も概ね3年程度で基本計画をまとめるというところまで議会を含め説明をしているので、そういった趣旨の内容で、目標の文章にそこまで書くかはわからないが、計画にどのような書き方をするかになってくる。
- それは、市大の計画の中期計画にどう落とし込むのかという、市の予算なり、市会なりに落とし込まれてくるのか。
- △市側の方も当然ながら、元々ベースにある根岸住宅地区の跡地利用基本計画がすでに発表されていて、その実現に向けた予算の一部も計上されている。それを市の次期中期計画に落とし込むイメージ。
- 連動するということか。
- △連動していくイメージ。
- 裏面の下から2行目、市・市大協議会、法人評価委員会、市会常任委員会とある。市会常任委員会とは市議会の常任委員会。法人評価委員会はここで良い。市・市大協議会というのは、市は横浜市のことを言っていると思うが、市大協議会というのは何なのか。
- △横浜市と公立大学法人横浜市立大学の間で、トップレベルで課題や意見交換をする場を設定している。横浜市側は副市長をトップに、大学側は理事長をトップとし、中身を協議する場である。両者の正式なプロセスとしてきちんと図っていこうということ。
- この協議会の正式名称は、市・市大協議会か。でないと、これは市のペーパーなのに市と協議するというのは変でないか。
- △正式名称は横浜市・公立大学法人横浜市立大学協議会である。
- 「・」で繋いでいるから、その次の句読点とは違うので、これは一つの協議会の名称というのによくよく読めばわかる。
- ※議題5について<その他>**
- それでは、「その他」として事務局の方からお願いします。
- △事前に委員の皆様には送らせてもらったが、法人の学内で発出した2通のメールというのを送らせてもらった。こちらについては、現在行われている横浜市長選挙に関係するものでもあり、市としても慎重に取り扱うべきものと考えているが、令和3年度の業務実績の評価にも係る可能性があるかと思っているので、この場を借りて大学評価の観点から意見などをもらいたいと思っている。
- 事柄の性格上、あまりとやかく今は言うことではないと思うし、大学・法人においても慎重な取り扱いをしてほしいが、皆さん何か気づいた点、注意してほしい点があったら意見

	<p>をお願いする。</p> <p>特に意見なし</p> <p>○見守ることとしよう。慎重な取り扱いが必要。選挙だと、色々なところから、色々なあらゆる評論が入ったりするので、それにどう与しても良いことはないから。我々も大学側も静観するということがよいのではないか。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>〔配付資料〕</p> <p>資料1 第86回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）</p> <p>資料2 公立大学法人 横浜市立大学の令和2年度の実績に関する各委員評価一覧</p> <p>資料3 令和2年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果（原案）</p> <p>資料4 公立大学法人 横浜市立大学の横浜市立大学の第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する各委員評価一覧</p> <p>資料5 公立大学法人 横浜市立大学の第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果（原案）</p> <p>資料6 公立大学法人 横浜市立大学第4期中期目標（R5～10）策定に向けて〔参考〕</p> <p>〔参考〕</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>